



項目 1: 化学品及び会社情報

- 化学品の名称
- 化学品の名称 **トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)**
- 別名/和名:
TPGME; Methyltripropylene glycol; TPM; [2-(2-Methoxymethylethoxy)methylethoxy]-propanol; [2-(2-(Methoxypropoxy)propoxy)propanol; [1-[2-Methoxy-1-propoxy]-1-propoxy]-2-propanol;
- CAS 番号:
25498-49-1
- 推奨用途及び使用上の制限:
- 推奨用途 溶剤
- 提供者の情報
- 供給者の会社名称,住所及び電話番号
製造者:
長春石油化学株式会社
104070台湾台北市中山区松江路301号7階
Tel: +886-2-2500-1800 Fax: +886-2-2501-8317
www.ccpgp.com
- 担当部門: SDS-info@ccp.com.tw
- 緊急連絡電話番号 Tel: +886 2 2500 - 1800 (営業時間: 8:30-17:30; GMT+8)

項目 2: 危険有害性の要約

- 化学品のGHS分類
本化学物質はGHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)により分類されていません。
- GHSラベル要素 (絵表示又はシンボル,注意喚起語,危険有害性情報及び注意書き)
- シンボル 該当しない
- 注意喚起語 該当しない
- 危険有害性情報 該当しない
- GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性 既知資料がありません。

項目 3: 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別: 化学物質
- 化学名又は一般名
25498-49-1 トリプロピレングリコールメチルエーテル ≥97.5%
- 官報公示整理番号 (化審法・ 安衛法) : 官報公示整理番号 (化審法): 2-438、 7-97

項目 4: 応急措置

- 応急手当処置に関する説明
- 一般情報: 救急人員は自己保護が肝要。
- 吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移動し、気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
- 皮膚に付着した場合
一般的にはこの製品は皮膚には刺激はない
水で数分間注意深く洗うこと。
迅速に医師の診察を受けることも不可欠である。
- 眼に入った場合 眼を開けたまま、流水で何分間か眼をすすぐ
- 飲み込んだ場合
口をすすぎ、水を十分飲む。
吐かせないこと。直ちに医師を呼ぶこと。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 慢性または急性の健康有害性はない。

(2 ページに続く)

—JP—



化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(1 ページの続き)

・ **応急措置をする者の保護:** 暴露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

項目 5: 火災時の措置

・ 消火剤

・ 適切な消火剤 周辺の状況に合わせた消火措置を取る。

・ 使ってはならない消火剤 情報なし

・ 火災時の特定危険有害性:

特定の火災条件下では、微量の有毒成分の発生は否定できない例:

煙

二酸化炭素(CO₂)

一酸化炭素 (CO)

・ 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

・ 消火を行う者の保護:

防火服(防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。

需要であれば、高温消防服を着用し、空気呼吸器を付けること。

酸素ボンベ付き呼吸保護装備を着用

陽圧式自給式呼吸器(SCBA)および防火服(防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。

項目 6: 漏出時の措置

・ 人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置

防護服を着用。

可能な場合は漏出物をせき止める。

換気のよい場所で作業を行う。

・ 環境に対する注意事項 特別な措置は不必要

・ 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水口をふさぎ、飛散した漏出物は集め、ポンプで回収する。

乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

土砂などで流れを止め、冷却固化させてから処理する。掃除機で回収する。

大量に液体がこぼれた場合 (> 1ドラム)、回収するか、安全に処分するために、バキュームカー等の機械的手段で回収槽に移送すること。

・ 他のセクションへの言及

第7項、取扱い注意事項を参照。

追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。

追加情報として、第13項、廃棄上の注意を参照。

項目 7: 取扱い及び保管上の注意

・ 取扱い

指定された個人用保護具を使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

・ 火災、爆発の防止などの適切な技術的対策: 特別な措置は必要ない

・ 保管

・ 適切な保管条件: よく密閉した容器の中で涼しく乾燥した場所に保管する。

・ 保存期間:

・ 注 意 事 項: ない

・ 特定の最終用途 追加的な関連情報は得られていません。

化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(2 ページの続き)

項目 8: ばく露防止及び保護措置

- ・ 許容濃度等
- ・ 許容濃度: この製品は作業場において監視する必要がある限界値を持つ成分は含まれていない
- ・ 生物学的許容値を持つ原料: 本製品は生物学的限界値の成分が含有されていない。
- ・ 設備対策:
許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。
本製品の取扱は空気の循環が良いところに行うことは推奨いたします。
当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要があります。
- ・ 保護具
- ・ 適切な衛生対策:
化学製品を取り扱う際の一般的な注意事項を厳守のこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
作業中の飲食、喫煙はしない。鼻をすすらない
眼に入れないこと。皮膚との接触を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 呼吸用保護具: 室内換気が十分な場合には必要ない
- ・ 手の保護具:



保護手袋

選択された保護手袋はEN 374標準のスペック或いは同等標準に準ずべき。
保護手袋は破損や汚れがある場合、使用しないで下さい。
手袋の材質は物質/材料/調合剤に対して耐性であり、成分を通すことがあってはならない。
浸透時間、透過性および劣化の点を留意しながら手袋の材質を選択する。

- ・ 手袋材
プラスチック手袋
ゴム手袋
ニトリルゴム
ブチルゴム
エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)
製造業者又は当局が指定する保護手袋を着用すること。
- ・ 手袋材の浸透時間 正確な浸透時間については保護手袋メーカーに問い合わせ、それを遵守すること。
- ・ 眼の保護具:



側方遮蔽のある保護眼鏡。

- ・ 皮膚及び身体の保護具:
取り扱う場合には、皮膚及び身体の前部 - 通常の作業衣で十分である
適切な顔面用の保護具、衣類及び防護靴等を着用すること。

項目 9: 物理的及び化学的性質

- ・ 基本的な物理及び化学特性に関する情報
- ・ 一般指示事項
- ・ 形状: 液体
- ・ 物理状態: 液体

(4 ページに続く)

安全データシート
JIS Z 7253:2019 による

印刷日: 2024.12.13

改訂日: 2024.12.13

化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(3 ページの続き)

色	無色
臭い	エーテルのような
臭いのしきい(閾)値:	情報なし
融点 / 凝固点 (混合物の場合は,記載省略可)	-78 °C (Literature; closed cup)
沸点又は初留点及び沸点範囲	243 °C (Literature)
可燃性	不適用 - この製品は液体です。
爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界	
下限:	1.1 Vol %
上限:	7 Vol %
引火点	116 °C (Literature)
自然発火点	270 °C (Literature)
爆発の危険:	本製品は爆発する危険はない
分解温度	情報なし
pH	情報なし
粘性:	
動粘性率	情報なし
力学的 約 20 °C:	6.48 mPas
溶解度 (混合物の場合は,記載省略可)	
水:	完全に混合できる
n-オクタノール / 水分配係数 (log 値) (混合物の場合は,記載省略可)	情報なし
蒸気圧 約 20 °C	0.03 hPa
密度及び / 又は相対密度	0.968 g/cm ³
相対ガス密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
その他のデータ:	情報なし
固形物含有量:	0.0 %

項目 10: 安定性及び反応性

- 反応性 一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
 - 化学的安定性 推奨される保管条件下で安定している。
 - 熱分解/回避すべき条件: 規定どおりの使用では分解しない。
 - 危険有害反応可能性 危険な反応は起きていない
 - 避けるべき条件:
 - 強い加熱。
 - 製品は高温時に酸化する可能性がある。
 - 蒸発させて完全に乾燥させないでください。
 - 混触危険物質
 - 酸化剤。
 - 強酸類。
 - 強塩基類。
 - 危険有害な分解生成物
 - 一酸化炭素と二酸化炭素
 - アルデヒド
 - 酸
- 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。

項目 11: 有害性情報

- 毒性学的影響に関する情報
- 急性毒性 分類できない

(5 ページに続く)

安全データシート
JIS Z 7253:2019 による

印刷日: 2024.12.13

改訂日: 2024.12.13

化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(4 ページの続き)

・分類上の LD/LC50 値:

25498-49-1 トリプロピレングリコールメチルエーテル

経口	LD50	3,500 mg/kg (ラット)
皮膚	LD50	15,440 mg/kg (rab)
吸収	LC0	>330 ppm (ラット) (8hr)

・皮膚腐食性 / 刺激性:

分類できない

ウサギ:刺激しない (OECDテストガイドライン 404)

・眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性:

分類できない

ウサギ:刺激はない (OECD N/A; EPA OPP81-4)

・呼吸器感作性又は皮膚感作性:

分類できない

マウス (リンパ節増殖試験):皮膚に感作されない (OECD 429)

・生殖細胞変異原性:

分類できない

In-vitro 遺伝毒性試験 (哺乳動物細胞): 陰性 (OECD 473)

提供した資料は結構が似ている成分によるもの。

・発がん性:

分類できない

No Adverse Effect Concentration (NOAEC): 25312 mg/m³

提供した資料は結構が似ている成分によるもの。

・生殖毒性:

分類できない

動物試験で、催奇形性はなかった。

生殖機能を損なわない。発生毒物ではない。

未観察影響濃度 (NOAEC): 3000 mg/m³

・特定標的臓器毒性 (単回ばく露): 分類できない

・特定標的臓器毒性 (反復ばく露): 分類できない

・吸引性呼吸器有害性: 分類できない

・主要刺激作用:

・皮膚腐食性 / 刺激性 刺激作用はない

・眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 刺激はない

・呼吸器感作性又は皮膚感作性 感作作用はない

・誤えん有害性 情報なし

項目 12: 環境影響情報

・生態毒性

・水生環境毒性:

分類できない

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない (試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50 / EC50/EL50/LL50 > 100 mg/L)。

25498-49-1 トリプロピレングリコールメチルエーテル

EC50	21,010 mg/kg (微生物) (QSAR)
EC50/48h	>10,000 mg/l (ミジンコ属) (OECD 202)
EC50/96h	11,619 mg/l (魚類) (OECD 203)

・残留性・分解性

生物分解しやすい

分解性: 66% (28, OECD 301F)

・生体蓄積性

生体蓄積性が期待されていません。

(6 ページに続く)



化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(5 ページの続き)

生物濃縮係数(BCF): 1.162 (EPIWIN QSAR)

・ 土壤中の移動性

ヘンリー定数(H): 0.272 Pa m³/mol @ 20°C

Level III Fugacity Modelling:

空気: 0.25 %

水: 48.5 %

土壌: 51.1 %

土砂: 0.08 %

・ 他の副作用 情報なし

・ その他のエコロジーに関する注意事項:

・ 一般注意事項: 薄めずに、あるいは大量に地下水、河川もしくは下水施設に流してはならない

項目 13: 廃棄上の注意

・ 化学品 (残余廃棄物) , 当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

・ 勧告:

可能であれば、回収又は循環使用をお願いします。

リサイクルについて廃棄物処理業者に問い合わせる。

特殊廃棄物規定に注意しながら、事前処理を行った後に許可された特殊廃棄物焼却設備に送り込む。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

・ 汚染容器及び包装

・ 勧告:

汚染されたパッケージは十分に空にし、適切な方法で洗浄した後にリサイクルできる。

関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

・ 推薦する洗剤: 水、場合に応じて洗剤も使って

項目 14: 輸送上の注意

・ 危険物の分類の状態: 本品はICAO、IATA DGR、IMDG、US DOT、欧州ADRおよびRID、またはカナダTDGでの輸送上の規制はありません。

・ 国連番号

・ ADR, IMDG, IATA 該当しない

・ 品名 (国連輸送名)

・ ADR, IMDG, IATA 該当しない

・ 国連分類 (輸送における危険有害性クラス)

・ ADR, ADN, IMDG, IATA

・ 分類 該当しない

・ 容器等級

・ ADR, IMDG, IATA 該当しない

・ 環境危険:

・ 海洋汚染物質 該当しない

・ ユーザー用特別予防措置 情報なし

・ UN "模範規制": 該当しない

・ 国内規制 国の特定の法規制は、項目15を参照する。

JP

(7 ページに続く)

安全データシート
JIS Z 7253:2019 による

印刷日: 2024.12.13

改訂日: 2024.12.13

化学品の名称 トリプロピレングリコールメチルエーテル (Tripropylene Glycol Monomethyl Ether)

(6 ページの続き)

項目 15: 適用法令

・ 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

・ 労働安全衛生法(安衛法)

・ 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)

CAS No. 25498-49-1 トリプロピレングリコールメチルエーテル (1重量% 以上含有する製剤その他の物)
(2026年4月1日以降のSDS提供)

・ 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

CAS No. 25498-49-1 トリプロピレングリコールメチルエーテル (1重量% 以上含有する製剤その他の物)
(2026年4月1日以降のSDS提供)

・ 化学物質排出把握管理促進法(化管法, PRTR法) 非該当

・ 毒物及び劇物取締法 非該当

・ その他の法令

・ 化審法

・ 既存化学物質

2-438, 7-97

・ 消防法: 第4類 引火性液体 第三石油類

・ 航空法: 危険物として規制されていない

・ 船舶安全法: 危険物として規制されていない

項目 16: その他の情報

・ 縮約と二文字語:

ADR: Accord relatif au transport international des marchandises dangereuses par route (European Agreement Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Road)

IMDG: International Maritime Code for Dangerous Goods

IATA: International Air Transport Association

CAS: Chemical Abstracts Service (division of the American Chemical Society)

LC50: Lethal concentration, 50 percent

LD50: Lethal dose, 50 percent

・ 資料

欧州化学品庁 (ECHA) のウェブページ: 登録物質の公開情報/普及データベース。

<https://echa.europa.eu/registration-dossier/-/registered-dossier/13199>

・ 免責条項:

CCPグループは、使用者/顧客/受取人全てに本安全データシート (SDS)を注意深く検討し、本製品と関連する全データや可能性のある全ての危険を理解することを推奨します。必要に応じて、適切な専門家にご相談ください。当情報は発行日に誠意を持って提供され、正確性を確信しています。また、明示または黙示を問わず、保証を提供しておりません。本製品の使用において、規制上の要件は各レベルで異なるため、現地/地域/州/県及び (または) 国家の法律順守の保証は顧客/使用者の責任となります。また、実際の操作や使用状況はCCPグループの管理を超えるため、本製品を安全に使用するために求められる必要な措置の決定も顧客/使用者の責任です。CCP グループは、CCP グループ以外から入手されたSDSに対して責任を負いません。お持ちのSDSが最新のものであるか、またはその他出所から入手したSDSかわからない場合、最新バージョンを入手するために当社にお問い合わせください。